

主要関連事業（エフビーエス、JM、フジミエ研）

その他の事業は、リテール事業から建設用資材製造・販売、ビル管理、不動産事業等を中心に展開しており、売上高は374億円余となり、セグメント利益は18億円余となりました。

株式会社 エフビーエス

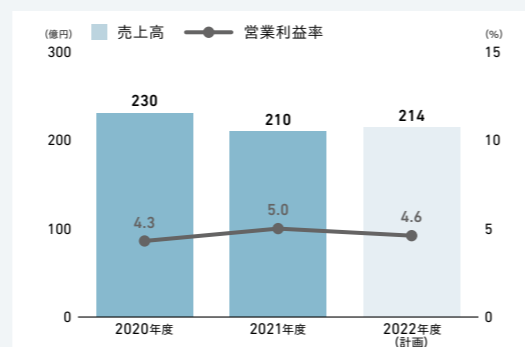


事業概要

- ビル管理（建物管理運営、設備点検、警備等）
- 建築（改修・耐震補強・リノベーション等）
- 土木（地盤改良・構造物補強等）

強み

- 設計から施工、建物管理までワンストップの幅広い対応力
- 資産価値向上提案型企業として、今だけではなく将来を見据えた提案力



前期の振り返り、今後の展望

2021年度は、資産価値向上提案型企業への変革を目指し策定した「新中期経営計画 FBS21-24」の1期目として、組織改定や注力分野への経営資源集中など、様々な施策を実行しました。その結果、売上高・営業利益とも目標を達成しました。

新中期経営計画の2期目となる2022年度は、建築・土木・ビル管理の既存3事業のさらなる拡大に加えて、環境面では「脱炭素関連提案の拡大」、社会面では「包括管理事業への注力」、ガバナンス面では「社内ワーキングによるボトムアップ型課題解決」などの取り組みを行うことで、企業価値の向上に努めます。

株式会社JM

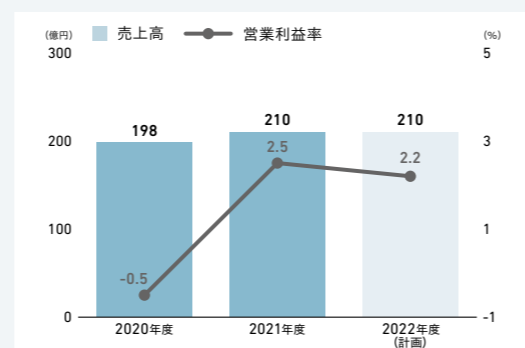


事業概要

- 建物設備の保守・メンテナンス
- 建物設備のライフサイクルマネジメント
- EV充電器及び小規模ソーラー・蓄電池整備
- 地域創生及び自治体の包括管理業務
- BPO・アウトソーシングサービス

強み

- 全国各地のフランチャイズによる全国ネットワーク体制
- 地域の職人がIT活用で業務を効率化
- 21万施設の保守管理で蓄積したノウハウ



前期の振り返り、今後の展望

2021年度は、提携先であるセブン-イレブン、日産自動車、出光興産、日本郵政、スターバックスなどの大手民間企業に加え、自治体の公共施設の包括管理業務が開始となりました。2022年度は、新たに 埼玉県鴻巣市（118施設）、静岡県伊豆市（91施設）等の包括管理業務に取り組んでいます。また、電気自動車（EV）充電設備工事においては、設置件数が累計4万件を超え、国内設置数No.1企業です（→WEBサイト「TOPICS」に関連記事）。

今後もJMは、地域の建物施設老朽化等の課題解決に向けて、民間施設の維持管理ノウハウの活用や、各地域の建物保全を担う職人の技術革新やDXを進めていきます。また、民間企業・自治体・市民と連携して、ハード・ソフト両面で地域プラットフォーム構築を進め、地域の経済活性化に貢献していきます。

フジミエ研株式会社

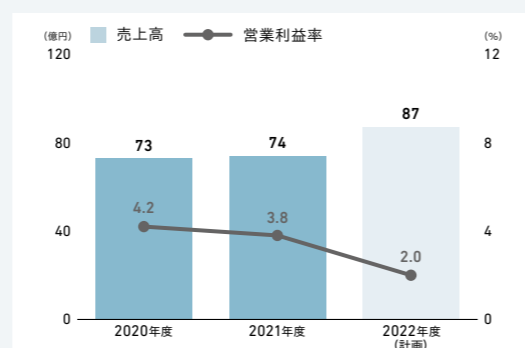


事業概要

- コンクリート・セグメント、プレキャストコンクリート建築部材、SEEDフォーム^{※1}等のコンクリート二次製品の製造・販売

強み

- 固有技術（SEED、REED^{※2}、ワンパス継手）による他社との差別化
- アライアンス工場による全国での事業展開（SEED、REED）
- 他のゼネコンに対する製造サービスの安定的かつ継続的供給（建築プレキャスト）



前期の振り返り、今後の展望

2021年度は、新型コロナウイルスや原材料価格高騰による業績への大きな影響はありませんでした。建築大型案件の着工遅延によりPC製品の出荷が出来ず、またSEED・REED部門においては案件の減少により売上高が減少しましたが、セグメント部門において手持ちの大型セグメント案件の生産性が向上したことにより製造量が増加し、売上高、売上利益が大幅増となったため、全社の業績としては増収増益となりました。

今後の展望としては、当社保有技術を活かした周辺技術の開発・活用を検討し、新規事業への展開を模索していきます。さらには、各業務におけるIT化の推進、次世代を担う人財の確保と育成、CO₂削減に向けた取り組みも積極的に実施します。

TOPICS 鴻巣市 公共施設包括管理業務

JM・FBS・前田建設共同事業体は、2022年4月より、埼玉県鴻巣市が保有する公共施設（118施設等）の包括管理業務を開始しました。本業務では、業務水準の統一、保守管理の質の向上、業務の効率化を図り、持続可能な公共施設の管理運営を実現して参ります。そのため、巡回点検、作業の電子化、施設別カルテ、マネジメントセンターの導入をはかり、不具合の未然防止を徹底致します。また、鴻巣市とのデータ共有を進め、業務負担縮減に貢献致します。2022年度は、同市が進めるデジタル田園都市国家構想推進交付金事業を支援し、先進的なファンリティマネジメントの基盤構築を図ります。



※グループ内包括管理業務状況:運営開始中4件、優先交渉権獲得・運営準備中2件(2022年9月末現在)

※1 SEEDフォーム

SEEDフォームは、低水セメント比の高強度モルタルを基材とし、ビニロンファイバーを補強材として混入することで、構造物の耐久性とひび割れ分散性を大幅に向上させたプレキャスト型枠です。埋設型枠として十分な曲げ強度を確保し、コンクリート構造物の耐久性を向上させます。またSEEDフォームの背面は、打継ぎ面処理剤と高圧ジェット水洗浄により目荒し処理されているため、コンクリートとの一体性も確保することができます。さらに、型枠脱型及びコンクリート養生の作業も省くことができ、工期の短縮も可能となります。

※2 REED工法

REED工法は、突起付きH型鋼とSEEDフォームを使用した鉄骨コンクリート複合構造橋脚の構造形式と施工方法です。単純化された作業の繰り返しのため省人化、省力化が図れ、急速施工の実現が可能となります。剛性の高いH型鋼を使用しているため耐震性に優れ、また、SEEDフォームを橋脚表面に配置しているため、美観性も向上します。



SEEDフォーム設置状況



REED工法施工状況